

荒い流れに負けるもんか

■第30回鳥取県カヌー選手権大会



藤井県カヌー協会長（中）から感謝状が贈られた



周りの声援を受け、力いっぱいパドルを操作する



カヌーを操り、ゲートを通過する

春風吹き荒れる日野川カヌーコースで、4月21日、今年で30回を迎えた鳥取県カヌー選手権大会（鳥取県カヌー協会主催）が開かれ、県内外から一般27人、高校生以下11人が参加し、カヌーの技を競い合いました。

選手たちは、緩やかな流れや荒い瀬がある表情豊かなコースで、スラロームとワイルドウォーター、チームレースの3種目に挑みました。川沿いではカメラマンも駆け付け、選手たちの雄姿を撮影したほか、多くの観客から声援が送られました。

また開会式では、第30回開催を記念し、昭和59年の第1回大会からの支援に、同協会の藤井省三会長から景山町長と町民を代表して恩田正重さん（下菅）に感謝状が贈られたほか、特別招待選手として、ロンドンオリンピックカヌー競技日本代表の海淵萌かいはももえさんが招かれ、競技前日にカヌー教室を開き、高校生以下の若い選手が指導を受けたり、当日の競技前にはコースを試走してみせました。

オリンピックで活躍する選手の力強い技に、多くの選手や観客が大きな拍手を送りました。



上位を目指し、真剣なまなざしで挑む選手たち



「負けないぞ」荒い瀬に立ち向かう



コース、艇庫など良い環境が整っている町 若い選手たちには、この大会から羽ばたいてほしいですね

ロンドンオリンピック カヌースラローム女子カヤックシングル出場 かいふち もえ 海渕 萌さん

昨夏に行われたロンドンオリンピックで、カヌースラローム女子シングルに出場した海渕萌さんは東京都町田市出身。現在、トヨタカローラ岐阜に所属し、企業のバックアップを受けて競技を行っています。

両親の影響で3歳からカヌーを始め、小学生のころから全国のカヌー大会で優勝。中学生からはジュニア代表として国際大会に出場している全国トップ選手です。

オリンピック出場はロンドン大会が初めてと話す海渕さん。「アテネ大会では出場年齢に達してなく、北京大会では選考されませんでした。悔しい気持ちでロンドン大会出場につながりました」と笑顔を見せました。



ピックは特別な場所。雰囲気、観客と報道カメラの数、環境すべてに圧倒されました。とても良い経験になりました。選手一人一人が国を背負っている重圧が伝わってきました」と振り返りました。

日野町についての印象は「艇庫が整備され、良いコースがあり力を入れておられる町です。コースは良い瀬が続く、まるでヨーロッパの川のように」とのこと。

今後については「ロンドン大会では力が発揮できませんでした。悔しい気持ちでいっぱいです。4年後のリオデジャネイロ大会を目指します。日野町の皆さん、ぜひ応援よろしくお願いします」と、力強い言葉で話しました。

皆さん、次のオリンピックを目指して海渕さんを応援しましょう。